

いも類と俳句 2

ジャガイモの笑窪

編集部

・馬鈴薯のゑくぼ大ききは男爵か

千葉 仁

・万有引力あり馬鈴薯にくぼみあり

奥坂まや

ジャガイモは「ジャガタライも」の略、馬鈴薯、二度芋、ゴショイモなどの別称があり、秋の季語である。揚句はいずれもジャガイモの表面にある「^{くぼ}凹み」、即ち「目」に着目した句である。そのジャガイモの目は萌芽原基であり、「目の数」「目の深さ」は品種識別上の主要形質となっている。即ち、ジャガイモにおける目の数や深さは、薯の形状と同様に質的形質であり、生産される年や場所に左右されることなく、常に品種の特性が発揮される。第1句目の作者・千葉仁は、スーパーで「北海道産新ジャガ」を見つけ買おうとしたが、その品種名の表示はない。スーパーに並ぶのは大体「男爵薯」か「メイクイン」であることを知る千葉は、その目の深さ（^{くぼ}ゑくぼ）を大きいと感じ男爵薯ではと推察したのである。特性表で（目の数、目の深さ）は、男爵薯が（やや多、深）、メイクインが（多、浅）であり、千葉の推察は見事的中していたのである。第2句は、分かつたようで分からない句であるが、奥坂の代表句の一つ。ジャガイモのどの薯にも^{くぼ}凹んだ目がある不思議さを普遍性と見て、万有引力と対峙させたと解される。ニュートンも驚く奥坂の新発見か。他に奥坂の代表句「汗かいて歩めり常にポストは赤」。